

ライブハウス南豆製氷プロジェクト 企画コンセプトと出演者募集告知

ライブハウス南豆製氷プロジェクトでは広くマンスリー・ライブの出演者を募集しています。音楽ジャンル、プロ、アマチュア、カバー、オリジナル等問いません。また音楽以外も、映画、演劇、舞踊、詩の朗読、マルチ・メディア・イベントなど、この場所にリスペクトを寄せる総ての表現者をサポートします。

南豆製氷は設備のゆきとどいたコンサートホールではありません。しかしイベントスペースとしては、風合いのある自然素材で構成されステージと観客の一体感が保ちやすい適度な広さの空間だと沢山の人が認めています。今後まず建てる事はできない伊豆石の壁に囲まれたこのような空間は、一般的なアミューズメント施設では不可能なのです。ですからなんとか現状の雰囲気のままでの有効利用を考えています。

しかし最新のライブスペースのように、空間を生かす音響設計がなされ空調設備も完備し、トレンドなフードとドリンクメニューが並び百戦錬磨のイベントスタッフがサポートする「箱」と、まったく別の目的で建てられ使われて老朽化し、駐車場用地のために買い上げられた土地に建つ廃屋の空間を同列では考えられません。

またこのプロジェクトは、南豆製氷の現在の持ち主である下田市商業協同組合の方々の寛大なバックアップ無しには考えられず、また北側アーチ型開口部の新たな木製扉や会場となる機械室の仮設ステージの設置、観客用の折りたたみ椅子の貸与など、そして南豆製氷応援団の皆さんの粘り強い活動と、たくさんの皆さんの好意と熱意の上で成り立っています。しかし、現状ではまだ石に囲まれた古い作業所跡しかありません。ですからそのような場所での定期イベントとなると、ブックイングの調整、ポスター、フライヤー、チケット、プレスリリースの制作と配布などの通常のライブハウス業務に加え、当日ボランティアの手配、イベントごとの関係諸団体との折衝、音響照明機器の手配など専任スタッフの日常的仕事量は増えるばかりです。そこをご理解いただきこのマンスリー・ライブでは、1回のイベントにかかる最低限の経費（電気代、灯油代など環境整備費、音響照明費用、フライヤー、チケットなどの印刷費、会場維持のための雑多な消耗品費など）だけは出演者の方にチケットノルマという一般のライブハウスと同じシステムで集客にご協力いただき、定期的に開催してゆきたいと考えています。ノルマというだけで、知名度や集客力の十分でない表現者に時間を買わせるというシステムに抵抗感を感じざるを得ない方もあるかと思われまます。しかし、いろいろ表現ジャンルや手法が交差する現代、玉石混合の中から次世代へ繋がる新たな表現出現の可能性に門を広く開けながら適切な表現の場所を維持するためには最前の方針だと思わざるをえません。そしてそのような目的のスペースとして、うってつけなのが南豆製氷だと考えています。

ですからチケットノルマとは言っても、都会のライブハウスのそれとは意味合いも違い、当然負担金額も最低限のものを考えています。また地元高校生の出演者には、音響技術を中心としたイベントスタッフの育成、および将来本格的なライブハウスやイベント出演時に必要となる、現場スタッフの役割とセルフプロデュースの理解の為のサジェッションを兼ね、PA機材の搬入搬出や会場設営などのサポートをお願いし、その分のチケットノルマの軽減を考えています。

また会場はバリアフリーにはほど遠く、木造部分など老朽化の激しいところなど年配の方や小さな子供達には危険な場所もあります。出演者、観客の方にはそこをご理解いただき野外イベントなどと同様に、進んで弱者をフォローする気持ちと自己責任での行動意識を持って臨んで頂けたらと思っています。決して責任逃れではなくこのイベントの成否はこのよう観客皆さんひとりひとりの意識、そこにかかっているとと言っても過言ではありません。安全性が完璧に確保され、至れり尽くせりでラグジュアリーな空間への補修改築とその維持には膨大な費用がかかってしまうのです。ここが既成のイベントやコンサートとは一味違うところだと思っただけなら幸いです。また近隣にお住まいの方々にもご理解を仰ぎ大音量の演奏は夜8時迄をめやすと考えています（底冷えを歓迎する製氷所跡に広さに見合った暖房器具も足りないのです、事実上冬は夜間の開催は辛いと考えています）。また敷地内にトイレ設備もなく、隣の下田市商業協同組合経営の駐車場の施設を使わせて頂いています。

・・・いろいろ制約はあれ、私たちはこのようなローカルティヤや経済状況を新たな表現空間の特性としてとらえ、逆に表現に生かすことはできないかと前向きに考えています。その方向性は小規模ながら、同じ人が集まる場所とはいえ万人向けのテーマパークやショッピングモールのイベントスペースなどとも必然的に違ったものになります。出演者、観客および近隣にお住まいの方々にもこの**project-N**

(ライブハウス南豆製氷プロジェクト)のある意味での特殊性をご理解いただきご協力をお願いしたいと思っています。

歴史が刻まれた『モノ』は人の時間感覚をひととき新たな視座へ誘います。そこで催されるイベントには「場所と時間を分けて考えない音楽の力」を借りて、事物間の背後に連なる新たな回路にそった、未来の我々の共生感創出の可能性があります。あたかも脳の構造としてのホログラムモデルのように、場所と歴史情報のランダムアクセスが可能となる場がその空間にたち現れます。そこには本質的な意味でのオーガニックな時空感覚を呼び起こす『壊れやすい手がかり』が眠っています。

周知のようにイベントの質はアーティストの著名度やカリスマ性、技術的習熟度、表現の発想の奇抜さなどだけで左右されるものではありません。アーティストがステージ上でパフォーマンスし現れた「演じられたもの」。リラックスしながらも自らの総ての感覚器官の最高感度でその場を感じ探ろうとしている観客の皆さんの視線。ただの変哲もない空間が一時途方もない広がりを見せることをイメージして、直感力と厳密な計算でそのイベントを企画運営するスタッフ。そして、太鼓打ちでも肉肉でも村八分の片棒を担ぐでも無く、文化を育てようとする真摯な姿勢に基づいた率直な各種メディアによる批評。眠っていた空間が「今」にシンクロし共鳴を起こします。人間の脳の使われていなかった部分をnon-chemicalに励起させ、アルタードステイツ(変成意識)に導く「場」は、これら4つの異なった立場からの「思い」の協調で支えられ、相互の新たな関係性の回路の顕在化と共にその輪郭をはっきりとしたものにしてゆきます。これこそが古代から連綿と培われてきた伝統芸能や村祭りの伝えてきた「もの」と同質な、何もデジタル技術の専売特許ではない本質的な意味でのヴァーチャル・リアリティだと思えます。

今まで公演したアーティストが、こそってこの空間の醸し出す雰囲気絶賛しています。歴史の港下田港のウォーターフロント、下田の商店街の入り口にランドマークの様に建ち、伊豆急下田駅から徒歩3分、下田の近代化の歴史とそれに関わった多くの人たちの思いが刻まれた風格のある伊豆石の館でLIVEをしませんか!!!!。

3月26日(日)、4月23日(日)、5月20日(日)、それぞれの出演希望者を募集しています。ブックイング及び詳細等は下記まで気軽にお問い合わせください。また当日数時間だけならスタッフとして協力できるという方や会場で簡単なドリンク類などの販売をして下さる方からのご連絡もお待ちしています(タダでliveが見れるという特典?だけしかないのですが)また建物北側、河沿いの歩道との間のスペースを利用してミニフリーマーケットの開催も考えています、出店の既定は最低限にとどめる予定です。勿論出店者はスタッフとして会場内の出入りも自由です、お問い合わせお待ちしております。さらに運営方法やシステムに関するご提案、ご意見から批判、苦情まで・・・E-mailやwebsiteを通じての匿名でもかまいません、知恵をお貸しただけなら幸いです。

加えて、このプロジェクト以外の日にあの場所を利用したいという方や、希望的観測や類推ばかりの趣旨には同意できないので?！独自にイベントを開催したいと考えられている方にも私たちは協力を惜しみません。また駐車場推進派の方からのご意見もお待ちしております。そこから、二者択一でも妥協でも計算でもない(保存か駐車場かという結果のみに偏った対立ではなく)命題と反命題との、今はまだ私もしっかりと目に見えない、新しい回路による結びつきによって生まれる第三の可能性の存在を信じたいと思っています。それを信じて企画、運営することが、その方法の可能性を自らの血肉を削ぎながらかみ見せてくれた先人達や音楽に対する礼節だと思っています。

・・・いつもそこから次のliveは始まっているのです!

(2006年3月3日、文中敬称略、文責:S.Phuzywara)



information

ライブハウス南豆製氷プロジェクト・オフィス
〒415-0151 静岡県賀茂郡南伊豆町青市1055
phone 090-3743-4731 (フジワラ)
fax 0558-62-3675
E-mail nanz@interloid.net
URL <http://interloid.net/nanz.htm>

produce co-produce co-operation

ライブハウス南豆製氷プロジェクト・オフィス
下田市商業協同組合
藤原シゲトシ・ギター・ワークショップ
アクセス・スカイ・パラグライダー・スクール
最後まで読んでくれたアナタ!